

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Preconception dietary inflammatory index and hypertension disorders of pregnancy: The Japan environment and children's study

和文タイトル:

妊娠前の食事性炎症指数と妊娠高血圧症候群の発症の関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pregnancy Hypertension:

年: 2022 DOI: 10.1016/j.preghy.2022.03.003

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の食事性炎症性指数と妊娠高血圧症候群の発症の関連について検討することを目的としました。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、単胎妊婦を対象としました。妊娠前の食事摂取については食事調査票で把握し、その内容から、炎症をもたらす食事(向炎症食)の程度について食事性炎症指数(Dietary inflammation index: DII)を計算しました。この指数に基づいて、参加者を4グループに分類し、分娩歴の有無でさらにグループ化しました。それぞれのグループにおける妊娠高血圧症候群の発症リスクを比較しました。

結果:

エコチル調査参加者のうち 94,265 人が解析対象者となりました。解析の結果、妊娠前の DII が高かった妊婦は、低かった妊婦に比較して妊娠高血圧症候群の発症頻度が高いことがわかりました。この傾向は、経産婦のみに認められました。

考察(研究の限界を含める):

妊娠高血圧症候群の病因は多岐に渡ることがいわれてきましたが、近年生活習慣による発症のリスクが提唱されています。今回の結果により、経産婦において妊娠前の食事性炎症性指数が高いことが、妊娠高血圧症候群の発症に関連することが示唆されました。これは、妊娠前の食事習慣の重要性を示すものと思われます。本研究の限界としては、エコチル調査において妊娠高血圧症候群を妊娠高血圧症と妊娠高血圧腎症の別に厳密に区別していないことが挙げられます。

結論:

特に経産婦において、妊娠前の食習慣の改善により、妊娠高血圧症候群の発症リスクを下げられる可能性が示唆されました。